

# 妙安寺だより 368

## 肺がん手術 入院・手術・抗がん剤治療の4カ月

それは、昨年1月に毎月通っている神経科の先生の「血液検査をしてみませんか」という一言から始まりました。丁度、古希（70歳）で区切りのいい年齢でした。

検査の結果、系の数値が通常の1.5倍。2月に再度検査、数値は変わらず。

3月に九州医療センターの血液内科を紹介され、血液検査（初めて8本も採血されました）と胸部レントゲンを実施。蛋白質系の数値は変わらないが胸に影があり、4月に胸のCTとにて、髄液の検査。その結果、胸はと診断され、骨髄には大きな異常はありませんでした。

5月に呼吸器内科で診察。中旬には右眼の白内障手術。開山可観院日延上人の350遠忌法要の行事を済ませ、6月検査入院。肺腫瘍の組織の一部の採取、退院翌日にPET-CT（放射性薬剤を服用）検査。結果は肺ガンと診断。肺の入り口付近のリンパ節に異常が認められ、7月に呼吸器外科にて、検体検査のために入院、結果は大きな転移は見られないということで、手術をすることになりました。

この半年、神経科・血液内科・呼吸器科・呼吸器外科という診察でしたが、同時に予期もしない「肺ガン」が見つかりました。（前回と重複している部分があります）

9月5日入院、8日手術。（手術は補助の、右肺下葉部を切除する方法で、全身麻酔・横向き・右脇を10cmくらい切開、所要時間は5、6時間くらい）18日に退院。

10月の中旬に抜糸。ガンはIIA期ということでした。（IIA期というのは、なにを表しているのかわかりません）検体の精密検査の結果、転移していることが判明し、約4カ月にわたり（4週間ごとの入院と通院で抗がん剤治療）、4回の抗がん剤の治療を受けることになりました。

最初の抗がん剤治療では10日ほど入院。副作用なし。2回目から前半（4日間）は入院、後半は通院にて抗がん剤治療をすることになりました。（入院中は2日間で24時間の点滴。通院で2時間の点滴）

今年、1月15日に抗がん剤治療が終了。2月一杯、副作用の影響で、味覚がいちばんひどく、何を食べてもおおいしく感じられませんでした。とにかく第1段階終了、今後は3カ月毎の診察。

※私の実弟（妙安寺ファミリーバンドのリーダー）が、今年の1月25日オーストラリアのメルボルンにおいて、私と同じ病名にて逝去。66歳でした。